

教 員 氏 名	若松亮太	職 位	助教
最 終 学 歴	Monash University, Doctor of Philosophy		
学 位	Doctor of Philosophy (Sociology) Monash University Master of Arts (Professional and Applied Ethics) The University of Melbourne Master of Social Policy, The University of Melbourne		
役 職	広報プロデューサー	委員会	学生委員会
担 当 科 目	異文化研究 Communication Skills IV・V 英語専門演習・卒業研究 Advanced English II・VI 地域研究Ⅲ（オセアニア）・Oceanian Studies NGO・NPO 論（桜花学） 基礎演習Ⅰ・Ⅱ		
教科書・教材・教育方法の実践例	1. 「ナラティブを媒介としたアクティブラーニング」（異文化理解）：様々な文化的背景を持つ人々のナラティブ（語り）を読み込み、学生自身が異なる文化を分析し理解する方法を身に着け、自らもナラティブで表現できるように授業を設計し、指導している 2. 「仮想 NGO・NPO 運営ワークショップ」（NGO・NPO 論）：授業で NGO・NPO について基本的なことを学んだうえで、学生自ら NGO・NPO 組織を立ち上げ、運営することを仮想的に行うワークショップを実施し、実践力を養っている		
教育研究業績	著書 1. 「災害時の情報アクセスと内容理解—外国人住民の「混乱」の背景にあるものの」、『東日本大震災と外国人移住者たち』明石書店、174-189 頁（2012 年 2 月、単行本、分担執筆） 学術論文 1. 「「Te Whariki」の視点から考察する オーストラリア・ヴィクトリア州におけるプレイグループの活動」（査読付）『桜花学園大学保育学部研究紀要』第 31 号、101-112 頁（2025 年 3 月、単著） 2. 「ナラティブを媒介としたアクティブラーニングの実践」『名古屋短期大学研究紀要』第 62 号、101-114 頁（2024 年 3 月、単著） 3. 「希望を求めて —原子力災害以降の移住者のナラティブ分析から—」（査読付）『オーストラリア研究』35 号、18-31 頁（2022 年 3 月、単著） 4. 「2011 年の原発事故を契機とした海外移住」（査読付）『移民政策研究』12 号、129-147 頁（2020 年 5 月、単著）		

	報告 1. 「移住の根底にある希望：動機形成や実現過程の考察」『桜花学園大学観光総合研究所事業報告書』第 19 号、37－44 頁（2025 年 3 月、単著） 2. 「移住が作り出す可能性：地域おこしへの貢献」『桜花学園大学観光総合研究所事業報告書』第 18 号、97－106 頁（2024 年 3 月、単著） 3. 「海外に渡った福島原発事故避難者の難民性について—環境正義の視点からの検討」『難民研究ジャーナル』第 10 号、132－134 頁（2021 年 3 月、単著） 学会発表 1. Metaphors for Hope: An Analysis of the Narratives of Nuclear Disaster Migrants (Japanese Studies Association of Australia (JSAA) 2021 Conference、(2021 年 10 月、於：クイーンズランド大学・オンライン)) 2. 破壊から希望へ：原発災害後の海外移住が意味するもの（豪日交流基金（AJF）助成シンポジウム「フクシマから始まる越境：オルタナティブを考える」、オーストラリア学会 2021 年度全国研究大会（2021 年 6 月、於：福島大学・オンライン）） 3. Historical Memories in Migrants' Narratives: Japan' s Modern History and the Fukushima Nuclear Disaster（移民政策学会 2019 年度冬季大会（2019 年 12 月、於：長崎大学））
所属学会	移民政策学会、オーストラリア学会